

천명관

○ 略歴

1964年、京畿道龍仁で生まれる。

高卒、軍隊、除隊後、祖父母を扶養し、保険セールス、ゴルフ店員など。

シナリオ作家として映画「총잡이」「북경반점（北京飯店）」などのシナリオを書く。

（波田野はこのビデオを持っていました。チャジャンミョンの味を追及するお話で、おもしろいでした）

2003年、文学동네新人賞小説部門で短編小説「프랭크와 나」当選で登壇。

2004年に第10回文学トンネ小説賞で長編「고래（鯨）」が当選。

2010年「高齢化家族」、2013年に映画化される。

○ 小説集

- 《고래》 문학동네、2004
- 《유쾌한 하녀 마리사》、문학동네、2007
- 《고령화 가족》、문학동네、2010、2013年に映画化
- 《자전 소설 2 (오 아버지)》、강、2010
- 《나의 삼촌 브루스 리 1》、예담、2012
- 《나의 삼촌 브루스 리 2》、예담、2012

○ WIKI

「고래」で第10回文学トンネ小説賞を受賞したときは、その自由な話法と構造によって批評家と小説家たちから注目をあつめ、破格という評をとった。審査をした作家은희경は「面白い文章だからといって秀でた小説だということができるか、という点で悩ましい作品ではあるが」、認めないわけにはいかなかったという評を残している。천명관은、「天の下に完全に新しい話はない。作家は既存の話を再構成して聞かせる人間」だと考えていると述べているが、彼の作品は、誰でもどこかで聞いたような気のする話を、膨大なエネルギーと舌を巻くような面白さで読者をひきつける魅力があるという評価されている。新人作家のわりに年齢が高く、デビューは遅かった。高卒で専門的な創作教育を受けたことがないという事実は、彼の「話」を作る才能は生まれつきのものではないかと思わせる。

○ 한겨레 뉴스 2013.04.26 ‘고령화가족의 작가 천명관을 만나다

“그래서 개인에게 관심이 없어요. 별로 존경할 만한 존재도 없고요. 입만 열면 국가와 민족을 걱정하는 사람을 보면 그냥 ‘이 새끼 나쁜 새끼구나’ 생각해요. 영웅이고 뭐고 다 우연의 산물이고 덧없다고 느껴요.”

“거대 담론보다는, 도시락 안 싸온 친구를 보면 ‘내 도시락을 반으로 나눠 먹지’ 생각하는 작은 선의가 유일한 희망이에요. 혁명 안 해봤나요? 다 해봤지만 역사는 언제나 대학살로 마감되잖아요.” http://www.hani.co.kr/arti/culture/culture_general/584792.html

○ 作品「爬虫類の夜」

<登場人物>

그녀 수경 : 一流出版社の編集局長をしていたが、不眠症のため休職して世界旅行に出る。唯一の財産であるマンションを売って1年以上世界を放浪して帰国したが、職場には復帰できず、フリーの出版企画者に。現在は連立住宅の住人。

営業部長 : 10年以上いっしょに수경と同じ職場。50歳を越えて離婚し、オフィステルに住む。「出版界に30年」が口癖だが、実は20年と少し。

少年 : 隣の部屋に住む中学生。水商売らしい母親と2人暮らしで自虐癖あり。

<構成>

3人称小説。現在と過去が交差する9つの節でなる。

[1] 수경の不眠。営業部長の放言

[2] 不眠は5年前に爆竹の音として始まり、ついに精神科に行きつく。隣の部屋から不審な音が聞こえる。

[3] 수경は屋上でタバコを吸う。20年以上勤めた職場を離れて世界旅行をしたが不眠が治らないまま帰国。職場復帰はかなわずフリーになり、もうすぐ50代になろうとしている。

[4] タバコを吸っているうちに寝こんで雨で目を覚ますが、そのまま雨に打たれる傘。数日前にある作家から聞いた爬虫類の話の思い出す。脳幹の奥深くに保たれている爬虫類の記憶が傘を苦しめているというのだ。

「我々は明らかにその生命とつながっているのです。個体の死はこれまで無数にくり返されてきましたが、各個体は自分の生を遺伝子に記録させて後世に伝え、死を介した果てしない更新と進化を通して、ここまで来たのです。だから私たちは孤立した個体でもないし、百年も生きられない有限の存在でもありません。私たちは長い地球の歴史のなかで1つにつながり、数億、数千年間つづいていく不滅の生命体なのです」

[5] 屋上に上がった傘はタバコを吸っている少年に会う。そして中絶していなければ同じ年頃だったはずだと考える。

「알고 보니 범인이 너였구나」

傘の年齢と経歴	例
現在 40代後半(50歳に近づきつつある)	48歳
40代前半で不眠が始まる(5年前)	43歳
30代後半で中絶(13, 4歳になっているはず)	34歳
20代後半職場生活をはじめる	25才

～20年近く職場生活して不眠になった

[6] 自慰をする傘

[7] 営業部長の自殺を知って傘は彼から受けた旅行の誘いを思い出す。

[8] 雨音で目が覚め、タバコを吸いに外に出た傘は屋上から飛び降りようとしている少年を見て駆け上がり、必死で止める。

[9] 明日からは毎日屋上に上がって少年を見守ろうと考えながら、傘は深い眠りに落ちていく。

・ひと握りの塩の話 — 個体の消滅 「그래도 아이는 죽지 않았다」

・家族の不在 ・反知性 ・10年間の沈黙→売れない作家